

# 進捗報告書（資金分配団体）

事業名:	支援が届かない在留外国人等への人道的支援
資金分配団体:	特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム
実行団体数:	8団体
実施時期:	2020年3月～2021年3月
事業対象地域:	全国
事業対象者:	在留外国人等

Version 1.0

日付: 2021年12月27日

## I. 事業概要

<b>事業概要</b>
現状の在留外国人の状況に合わせ、大きく3通りの事業を組み合わせることにより、生活困窮等のリスクを低減することを目的とした事業を行う。 1.支援団体アウトリーチ活動：困窮度合いが高く且つ外部支援と結びついていない層に対する緊急性が高い課題に対する個別対応型の支援活動やその体制構築事業 2.自助力向上：失業者などに対して、求職活動に向けた言語、ITなどの教育機会支援や支援者とエスニックコミュニティをつなぐコーディネーター等の”支援する側”としての雇用機会創出 3.その他：在留外国人支援に特化したファンドレイジング体制やボランティアを含めた支援者育成に資する活動

## II. 進捗報告の概要

<b>総括</b>
事前に想定していた感染症拡大防止の期間が長引く事により、各実行団体の支援活動は事業環境に合わせ、慎重に行われた。 実行団体の活動速度と比較し、困窮する裨益者は増加の一途を辿り、支援方法の改良や新たな困窮者の発生など、状況の先読みを行いながら事業が行われている。いずれの実行団体も状況に応じ、効果的な支援を継続的に行っている。大きな課題としては、引き続き困窮者への対応と考える。

## III. 活動実績

### 資金支援

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
事業を通じて発見、把握した課題、必要な支援などを啓発・アドボカシー活動を通じて発信していくとともに、団体間の支援ノウハウ、課題等の共有を図る。	期中の為、大きな進捗には至っていないが、第一回目の実行団体の全体会議を行い、これまで本分野で行われてこなかった団体間の交流が生まれ始めたと考える。 緊急的な人道支援であるため、当初想定していた以上に支援対象者である在留外国人の、主に基本的な生活基盤と考える住居や食料、医療面など困窮状態が進んでいる現状を認識している。 また、一つ一つの実行団体の事業を見ると、上述の住居や食料、医療などの不足している事象への資源投下のみならず、裨益者の将来（コロナ後）を見据えると、一過性の支援ではなく、今回支援事業に含まれている就労につながる教育支援や居住地域内での支援の仕組みなどが必要であると痛切に感じ、民間のみでの支援ではまだまだ不足、公共機関を含めた他のステークホルダーとの連携が必須と考える。 また長期的な見立てをした場合、個々の実行団体の資金調達はばらつきはあるものの、それほど大きくなく、背景には本課題に対する社会的認知が低いことが見えてきた。 一方、企業などを含め、部分的ではあるが、本分野の支援が必要である認識の高まりも感じている。

実行団体名	進捗状況	概要
北関東医療相談会	ほぼ計画通り	医療を受けにくい在留外国人への医療機会の提供と感染症予防の衛生用品の配布を行う事業。 当初予定の定期的な無料健康相談会は実施が困難な状況が続いたが、他団体と連携した医療相談会実施により実行予定。衛生用品の配布は順調に進んでいる。
北海道国際交流・協力総合センター	遅延あり	北海道全体の在留外国人支援として、食料配布、就労支援、日本語学習支援を実施する事業。 事業立ち上がり時間に時間を要したが、食料配布開始後から道内で反響を呼び、食料配布への事業比重を高めた方向に移行中。
日越ともいき支援会	ほぼ計画通り	ベトナムからの主に技能実習で訪日した方々への支援。 主に就労環境の悪化に伴う様々な課題に対する相談対応を行い、就労問題や心身の医療的支援サポートなど丁寧に対応され、再就労などに結び付いている。対象者の多さが、制度上の課題とともに対応継続の体制づくりの必要性がある。
反貧困ネットワーク	遅延あり	コロナ禍における居所を失った在留外国人への住居支援や生活支援を行う事業。 感染症拡大防止のため人流が減少し、課題を抱える方々との接触方法に課題がある。 また、居所支援については就労等の課題があり、出口戦略が課題となっている。

青少年自立援助センター	ほぼ計画通り	日本語力がなく、（授業料）支払い能力がない在留外国人への日本語教育を通じた就労能力を向上させる事業。順調に受講者数を伸ばし、日本語教育部分については目標達成の見込みである。またオンラインでのノウハウにより、多くの地域、多くの出身国者からの参加が行われている。課題としては、再就職支援であるが、チャレンジングな事業の為、経過を観察している。
日本国際社会福祉事業団	ほぼ計画通り	（地域）社会とのつながりが希薄な在留外国人の女性に特化した、日本語、パソコン教育を通じた就労機会の獲得を目指す事業。 就労についてはまだ結果を見る時期ではないため進捗は大きくはないが、日本語教育については順調に行われている。パソコン教育については、個別差が大きくやり方を見直している。
移住者と連帯するネットワーク	ほぼ計画通り	全国に点在する在留外国人に対し、各地にいる支援者ネットワークを活かした支援の実施と課題の集積を行う事業。 事業立ち上げにおいては、全国の状況などを見据えながら制度設計を見直すなど遅れたが、その後は目標のペースを上回る支援が行われている。
シャンティ国際ボランティア会	ほぼ計画通り	食料支援を通じ、より深刻な支援ニーズのある在留外国人に絞り込み、さらなる重点的支援を行う事業。 地域の社会福祉協議会や地域団体との連携、さらに外国ルーツのコーディネーターの配置などにより、順調に支援が行われている。

#### 非資金的支援（資金分配団体の伴走支援活動）

活動	進捗状況	概要
困窮者支援や福祉施策に関わる業務経験者による、事業の個別相談	ほぼ計画通り	立ち上がり時期については、事業環境を鑑みながら、資金分配団体の担当者とは各実行団体で協議をしながら適切な事業推進が行われたと考える。 特に福祉施策上出口がない裨益者が多く、個別相談よりも、新しい出口を開発する協議の形となっている。
対象地域における類似事業との連携。また、行政や産業面といった他セクターとの連携	ほぼ計画通り	事業終了時に行政をはじめとした報告会の準備をしているため、現段階では大きな進捗はないが、実行団体通しの連携事業や違う専門分野団体間の連携などが発生している。
啓発・アドボカシー活動	ほぼ計画通り	現段階では資金分配団体の伴走支援を通じた啓発・アドボカシーは大きな進展はないが、実行団体間の全体会議において、情報発信の強い団体からの事例などの共有を通じて、他団体が情報発信の必要性について意識を始めた。

#### IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>残念ながら、感染症拡大の傾向については収束の目途が立たず、またそれに伴い国内のみならず世界的に景気が不透明になっている点から、事業終了後の課題解決自体の見通しは立っていない。</p> <p>一方、本事業の実施を契機に、課題の絞り込みや実態が可視化できはじめ、この結果を用いて、当面必要と考える支援施策に役立てたいと考えている。</p> <p>またそれほど団体間の連携が盛んでなかった本分野において、全体会議を契機に、これまで点で活動していた支援を面展開できるように、伴走支援を行いたいと考える。</p>

#### V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥0	¥149,999,978	¥149,999,978	¥89,199,000	59%
	管理的経費	¥736,621	¥12,040,910	¥12,777,531	¥4,256,121	33%
プログラム・オフィサー関連経費		¥0	¥0	¥0	¥0	#DIV/0!
合計		¥736,621	¥162,040,888	¥162,777,509	¥93,455,121	57%
補足説明		<p>実行団体への助成は、本中間進捗報告後に執行の為、年度の100%執行には至っていない。</p> <p>管理的経費については、コンソーシアム団体への支払い時期の問題（未請求分）と移動制限等による交通費などの未執行の為、執行率が下がっている。</p>				

## VI. 事業上の課題

### 事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

感染症拡大に伴う移動制限による、支援対象者との接触機会低減が想定よりも大きかった。そのため、早期に支援実施方法の見直しを行い、予算の変更も含め、支援が行える体制整備を行った。（実行団体）

## VII. その他

### 自由記述

## VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	無	
報告書等	無	

## IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的で開催されていますか。	いいえ	コンプライアンス委員会は開設したが、開設間もなく定期的開催にまだ至っていない。